

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 13

方言とは何か (3枚)

沖縄語は方言ではない

2010年6月9日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語は方言と呼ばれてきました。筆者が、沖縄語は方言ではないと言うと、他の、方言と呼ばれているどの地方の言葉も、方言ではないことになります。

方言学という学問があります。学問に使う言葉は日本語(標準語、共通語、中央語)です。学者は標準語を使い、日本の各地の言葉を調べて標準語と関係づけ、言葉の機構図(系統図、階層図)を作り上げました。「方言」は、その作られた機構の中の用語です。中央の立場の用語です。辞書の説明もその立場です。方言学は、方言について標準語で論じるもので、そこでは標準語は方言より上位にあると考えています。

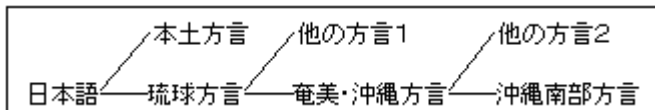
沖縄語は標準語の方言だという主張は、沖縄語を標準語の視点で見て、標準語の下位に置くものです。しかし沖縄語は、沖縄語の視点で見ると、即ち沖縄語の内側から見ると、標準語の下位言語ではありません。沖縄語は標準語と同位の言語です。

人は幼児の頃、家族や近隣の人との接触の中で言葉を覚えます。読み書きができる以前に、耳と口で覚えます。この覚え方は文字や教育には関係なく、原始時代から変わりません。こうして言葉を覚える幼児には、方言という意識はありません。過去に余所から入って来た言葉であっても、それを覚える幼児には余所の言葉ではなく、自分の言葉(母語)です。

沖縄語は、標準語が沖縄に来る前からあります。昔からある沖縄語が、あとから来た標準語の方言だというのは、沖縄側から見れば全くおかしい話です。沖縄語は標準語の方言ではありません。標準語の異形でもなく、訛でもなく、独立した言語です。

沖縄語に関する言語系統図式の例

外間守善氏の図式(「沖縄の言語史 142頁」、法政大学出版局、1982年)を要約すると、次のようになります。



琉球方言の「他の方言1」の内訳は先島方言、与那国島方言。

奄美・沖縄方言の「他の方言2」の内訳は沖縄北部方言など6区分。

この図式は、「日本語」が標準語を指し、琉球方言がその下位言語であると錯覚させるに十分です。地域を階層化したものですが、方言を階層化し、上位下位に仕分けたものと受け取られます。地域の言葉を「～方言」と呼ぶか、「～語」と呼ぶかは、外間氏も気にしています。(前掲書164頁)

辞書による「方言」の意味

辞書での説明は簡略で、しかも様々です。共通する点は方言を標準語の下位に置いていることです。一般の人もそう理解しているようです。記載例は後記しますが、要点を挙げれば次のようになります。

- (1) 標準語と異なる地方の言葉。
- (2) 一地方に限って使われる言葉。(暗に標準語を上位においている。)
- (3) 同一傾向の言語集団の言葉。(琉球語も一つの方言とされる。その中の首里方言と宮古方言は、共に琉球語なのに互いに通じない。)
- (4) 地方の土語。(昔からある言葉。標準語を中心に見ている。)
- (5) 地方なまり、いなかことば。(標準語を標準に考えている。)

辞書の記載例(発行年順)

広辞苑、第1版、1966年、岩波書店：一地域または階層にかぎって行われる言語の体系。一国の言語の中で、発音・意味・その他の点から標準語と異なる単語。第5版
大日本国語辞典、第27版、昭和42年(1967)、富山房：其の地方に限り行はるる言語。
大辞典、初版、昭和49年(1974)、平凡社：国語中の同一傾向の言語集団の言語。標準語にあらざる言語。地方地方の土語。

日本国語大辞典、第1版、昭和50年(1975)、小学館：共通語・標準語とは異なった形で地方的に用いられることば。また、中央の標準的なことばに対して、地方で用いるその地特有のことば。俚言。土語。なまり。片言。

特定の階級、仲間などの用いることば。隠語・俗語の類。

地域的な言語体系。ある地帯に通用する言語が全体として一つの言語体系に属すると認められながら、音韻・語法・語彙などに地域的な変異があるときにいう。

大字典、第14刷、昭和50年(1975)、講談社：一地方に限りて行はるる言語。

国語辞典、初版、1982年、旺文社：一つの国語で、使用地域による音韻・語彙・文法上の相違があるとき、それぞれの言語団体の全体をいう語。「関西」。

ある一定の地域だけにつかわれていることば。くにことば。標準語・共通語。

大言海、新編版、昭和58年(1983)、富山房：其土地限り二行ハルル言語。トコロコトバ。クニコトバ。

新字源、初版、昭和51年(1986)、角川書店：特定の地方だけに使われることば。地方なまり。

日本語百科大事典、第3版、1989年、大修館書店、913頁～：方言を巡る詳しい解説がある。例、一般に対比すべき言語を明示しないで「方言」ということが多いが、その場合は暗に標準語との対比が考えられる。

大字典、初版、1992年、角川書店：特定の地方だけに使われることば。地方なまり。

日本語大辞典、第12版、1992年、講談社：一言語のうちで、音韻・語彙・文法などの特徴によって、共通語と区別される地域的な言語体系。また、その地域特有の珍しい語。俚言。土語。

新大字典、第1刷、1993年、講談社：一地方に限って用いられることば。くになまり。

方音。

廣漢和辞典、初版、平成6年(1994)、大修館書店：一地方だけに使われることば。くになまり。土語。

大辞泉、第1版、1995年、小学館：一定の地域社会に行われる言語。一つの国語が地域によって別々な発達をなし、音韻・文法・語彙などの上で相違のあるいくつかの言語圏に分かれたとき、それぞれの地域の言語体系をいう。九州方言、琉球方言など。

共通語・標準語に対して、ある地方で用いられる特有の言葉。俚言。

特定の階層に用いられる独自の言葉。隠語・俗語の類。

新潮国語辞典、第2版、平成7年(1995)、新潮社：一国語の中で、使用地域の相違によって、音韻・語彙・語法等の面で相異なった言語の体系。

社会の位相によって異なる言語の体系。階級方言などともいう。

国の一地方だけで使われ、標準語と異なる言語。いなかことば。くにことば。なまり。

字通、初版、1997年、平凡社：各地特有の語。

広辞苑、第5版、1998年、岩波書店：一つの言語において、使用される地域の違いが生み出す音韻・語彙・文法的な相違。また、そのような相違に基づく同一言語の下位区分。地理的方言。「東北 」「沖縄 」。

共通語に対して、ある地方だけで使用される語。俚言。

社会的身分・職業・年齢・性別などの要因が生み出す音韻・語彙・文法的な特徴。また、そのような特徴によって区分された同一言語の変種。

大漢和辞典、修訂版、平成元年(1999)、大修館書店：各地方の言語。又、一地方の特有のことば。くになまり。土語。

全訳漢字海、初版、2000年、三省堂：その地方だけで使われることば。

新明解国語辞典、第6版、2005年、三省堂：地域的に見た、それぞれの言語(体系)の違い。狭義では、一地方に行われる単語・語法で、標準語(共通語)と違うものを指す。標準語・共通語

²¹ 大辞林、第2版、2005年、三省堂：国語が地域によって異なる発達をし、音韻・語彙・語法の上でいくつかの言語集団に分かれる時、それぞれの集団の言語体系をさす。

ある限られた地域に使われる、共通語とは異なる語彙・発音・語法。なまり。俚言。

共通語

ある階級・社会・仲間に用いられる言葉。隠語。

²² 新漢和大事典、初版、2006年、学習研究社：その地方だけで使われることば。

²³ 現代新国語辞典、第4版、2008年、学習研究社：標準語・共通語と異なる、ある地方だけで使われる個々の単語または語法。国ことば。里ことば。俚言。

照会先

〒1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp